

平成28年度 文化庁概算要求の概要

資料3

(単位:億円)

区 分	前年度予算額	平成 28 年度 要求・要望額	増△減額	増△減率	備 考
文化庁予算	1,038	1,192	154	14.8%	うち 「優先課題推進枠」 218 億円

◇世界に誇るべき「文化芸術立国」の実現◇

～文化力で地域と日本が輝く～

- ◆豊かな文化芸術の創造と人材育成
- ◆かけがえのない文化財の保存、活用及び継承等
- ◆我が国の文化芸術の発信と国際文化交流の推進
- ◆文化発信を支える基盤の整備・充実

28年度要求・要望額 (前年度予算額)

1. 豊かな文化芸術の創造と人材育成 237.5億円(199.3億円)

(1)文化芸術立国実現に向けた文化プログラムの推進 177.4 億円(127.2 億円)

①リーディングプロジェクトの推進 13.1 億円(新規)

◆文化プログラム推進体制の整備 3.1 億円(新規)

〔2016年秋から全国津々浦々で文化プログラムを実施するため、文化庁が取り組む文化プログラムを「文化カプロジェクト(仮称)」とし、文化庁に民間から全体を統括するジェネラルプロデューサー、各分野の担当プロデューサーやディレクターを配置する実行チームを構成して推進する。〕

- ・文化カプロジェクト(仮称)事業の認定(ロゴマークの付与)
- ・文化カプロジェクト(仮称)に関する広報・PR・調査(シンポジウムの開催等)
- ・文化カプロジェクト(仮称)支援員(文化芸術アソシエイツ(仮称))の任命、派遣 等

◆ジャパンリーディングプロジェクト事業 10.0 億円(新規)

〔実行チームのプロデューサーやディレクターを中心として、リーディングプロジェクトの企画立案を行い、現代舞踊、演劇、映画、伝統芸能、工芸、文化財、メディア芸術等の文化芸術資源を活用した、日本の顔となるようなクリエイティブな文化芸術活動を戦略的・効果的に発信する事業を実施する。(10件程度)〕

②国が地方自治体、民間とタイアップした取組の支援 148.6 億円(125.6 億円)

〔国が主体の取組〕

◆芸術祭等 7.3 億円(6.5 億円)

〔芸術の祭典として舞台芸術参加公演及び放送・レコード参加作品の顕彰等を行う文化庁芸術祭や、メディア芸術の祭典である文化庁メディア芸術祭の20周年記念企画展、地方展等を実施する。〕

◆工芸技術等の公開や文化財の鑑賞機会の充実 2.9 億円(1.4 億円)

〔国内における重要無形文化財保持者の工芸作品等の展示会や、国外において我が国の文化財を広く紹介し国際交流に貢献する文化財海外交流展等を実施する。〕

〔地方自治体・民間が主体の取組〕

◆ 戦略的芸術文化創造推進事業

4.3 億円 (4.0 億円)

国が芸術文化振興上推進することが必要な事業(障害者の優れた芸術活動や離島山村での鑑賞機会の提供など)や、公演情報等の海外発信の環境整備等に関する調査研究を行う。
・戦略的芸術文化創造推進事業 10団体程度(オペラ、オーケストラ、バレエ等)
・障害者の優れた芸術活動に関する調査研究及び試行的展覧会等の実施 等

◆ 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業

33.0 億円 (26.2 億円)

地方公共団体が企画する地域の文化資源等を活用した文化芸術活動等に対する支援を行い、文化芸術による地域活性化、地域文化の国際発信、インバウンドの増加を推進する。
・文化芸術により地域を活性化する取組(都道府県30事業、市区町村80事業程度)
・文化芸術創造都市としての取組(10事業程度)
・地域の文化施策推進体制の構築を促進する取組(7事業程度) 等
(具体例)・国際的な芸術祭、音楽祭、写真展の開催
・地域の音楽、踊り、演劇の公演、ワークショップ、アウトリーチ活動
・メディア芸術の展示、地域の文化資源を活用した現代アート展の開催 等

◆ 舞台芸術創造活動活性化事業

41.3 億円 (31.5 億円)

分野の特性に応じた舞台芸術創造活動に対する助成や、文化プログラムの推進等に対応した芸術団体の機能強化への支援を行い、我が国芸術団体の水準向上とより多くの国民に対する優れた舞台芸術鑑賞機会の提供を図る。
・年間団体支援:74団体、・公演事業支援:60公演程度、・機能強化専門人材支援:40名程度
※前年度「トップレベルの舞台芸術創造事業」の継承事業

◆ 劇場・音楽堂等活性化事業

33.5 億円 (30.0 億円)

地域の劇場・音楽堂等の活性化と実演芸術の水準向上を図るため、公演事業や専門的人材の養成、普及啓発活動、外国人受入環境整備等を支援する。
・特別支援事業(トップレベルの施設が行う事業に対する総合的な支援)(15施設程度)
・活動別支援事業(地域の中核施設が行う活動単位での支援)
公演事業(70件程度)、人材養成事業(40件程度)、普及啓発事業(40件程度)
・劇場・音楽堂等間ネットワーク構築支援事業
実演芸術の巡回公演に必要な旅費及び運搬費の支援(60件程度)
・外国人受入環境整備委託事業
プログラムの多言語化等外国人受入モデルの仕組みを構築(10件程度) 等

③ 文化プログラム推進のための基盤整備

◆ 文化施設等の環境整備、多言語化による訪日外国人対応等

24.8 億円 (4.9 億円)

国立文化施設、公私立の美術館・博物館、地域の劇場・音楽堂等における訪日外国人向けの鑑賞・体験事業や、多言語による解説・案内板の整備、外国語対応可能なボランティアの育成等を支援。

(2) 芸術家等の人材育成

89.4 億円 (85.4 億円)

○ 文化芸術による「創造力・想像力」豊かな子供の育成

67.2 億円 (63.1 億円)

◆ 文化芸術による子供の育成事業

52.4 億円 (51.1 億円)

小・中学校等において、実演芸術の巡回公演又は芸術家の派遣を行い、子供たちに対し質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供するとともに、実演指導・ワークショップ等を行う。
義務教育期間中に2回(「現代実演芸術」「伝統芸能」各1回)以上の鑑賞・体験機会を提供
・文化芸術団体による巡回公演事業(1,860公演程度)
・芸術家の派遣事業(2,850件程度)
・コミュニケーション能力向上事業(芸術家によるワークショップの実施等)(200件程度)

◆ 伝統文化親子教室事業

14.8 億円 (12.0 億円)

子供たちが親とともに、民俗芸能、工芸技術、邦楽、日本舞踊、茶道、華道などの伝統文化・生活文化を体験・修得できる機会を提供する。(4,000教室程度)

2. かけがえのない文化財の保存、活用 及び継承等

495.6億円(444.8億円)

(1)文化財総合活用戦略プランの強化

115.6億円(83.7 億円)

① 日本遺産魅力発信推進事業

17.0億円(8.1 億円)

地域の歴史的的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」に認定するとともに、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化・観光振興を図る。(支援件数:30件程度)

② 文化遺産を活かした地域活性化事業

29.7億円(21.5 億円)

伝統行事・伝統芸能の公開、後継者養成、古典に親しむ活動など、地域の文化遺産を活用した特色ある総合的な取組等を支援するとともに、新たに、地域の文化財に対する外国人のニーズに合わせた分かりやすい情報発信及び体制整備を行うモデル事業への支援を行う。

- ・地域の文化遺産次世代継承(370件程度)
- ・日本の歴史・伝統文化情報発信推進(10件程度) 等

③ 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

13.4億円(13.1 億円)

地域に存する文化財の活用、観光振興、多言語化による国際発信、地域へのアウトリーチ活動、人材育成等、美術館・歴史博物館を活用・強化する取組を支援することによって、美術館・歴史博物館が地域の核として文化の発信を牽引することを目指す。(支援件数:130件程度)

(2)文化財の適切な修理等による継承・活用等

336.5億円(326.8 億円)

① 建造物等の保存修理等

123.1億円(114.1 億円)

◆ 近代化遺産等重点保存修理事業

12.0億円(8.4 億円)

昨年世界文化遺産に登録された旧富岡製糸場をはじめ、明治以降に建造された煉瓦や鉄骨、鉄筋コンクリート造等の非木造建造物(近代化遺産)については、その多くが本格的な修理を実施すべき時期に達しているため、それぞれの特性に応じた修理事業を企画・実施する。(支援件数:14件)

◆ 伝統的建造物群基盤強化

15.2億円(12.0 億円)

伝統的建造物群保存地区を社会基盤として捉え、保存に関する計画から防災対策までを体系的に位置付け、定期的な修理による個々の伝統的建造物の健全性確保とともに、耐震対策や防災施設等の整備を一体的・総合的に実施する。(支援件数:160件程度)

※前年度「伝統的建造物群の保存修理等」

② 史跡等の保存整備・活用等

185.6億円(185.2 億円)

歴史上、学術上価値の高い史跡等について、保存と活用を図るための事業を行う所有者、管理団体等に対する補助や、地方公共団体が史跡等を公有化する事業に対する補助を実施し、保存整備や活用等を推進する。

- ◆歴史生き活き！史跡等総合活用整備事業(270件程度)
- ◆史跡等の買上げ(215件程度) 等

(3)文化財の公開活用・伝承者養成・鑑賞機会の充実等

43.5億円(34.3 億円)

○ 無形文化財の伝承・公開等

15.4億円(12.5 億円)

重要無形文化財及び選定保存技術の保持者、保持団体等が行う伝承者養成、原材料・用具の確保等や、重要無形民俗文化財の保護団体等が行う伝承者養成や用具の修理等に対して補助を行う。

- ・重要無形文化財保持団体等補助(30団体)
- ・選定保存技術保存団体等補助(35団体)
- ・民俗文化財伝承・活用等事業(70件程度) 等

3. 我が国の文化芸術の発信と国際文化交流の推進

26.1億円(24.0億円)

(1) 日本文化の発信・交流の推進

18.5億円(18.2億円)

① 芸術文化の世界への発信と新たな展開

9.6億円(9.6億円)

音楽、舞踊、演劇、現代アート等、各分野における我が国の優れた芸術文化を戦略的に世界で展開するため、海外のフェスティバルへの参加・出展、国内における国際フェスティバルの開催や海外の芸術団体との共同制作等の取組に対する支援等を行う。

- ・海外国際フェスティバル・展覧会参加出展等支援
対象分野:現代アート、舞台芸術(支援件数:50件程度)
- ・国際共同制作公演支援
対象分野:舞台芸術(支援件数:10件程度) 等

② 文化芸術交流の推進

6.6億円(6.6億円)

◆アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流推進

1.4億円(1.1億円)

国内のアーティスト・イン・レジデンス団体が、海外との双方向に行う交流活動や連携強化のための国内外ネットワークを形成する取組を支援する。

※前年度「文化芸術の海外発信拠点形成事業」

(2) 外国人に対する日本語教育の推進

2.1億円(2.1億円)

○「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

1.5億円(1.5億円)

我が国に在留する外国人が日本語を用いて円滑に生活を送ることができるよう、「生活者としての外国人」を対象とした、地域における日本語教育を推進する。

4. 文化発信を支える基盤の整備・充実

398.3億円(335.9億円)

◇国立文化施設の機能強化等

384.8億円(328.9億円)

① 国立文化施設の機能強化

272.2億円(256.9億円)

国立文化施設における展覧・公演事業等の実施、収蔵品及び観覧・鑑賞環境の充実等を含め、ナショナルセンターにふさわしい機能強化を図る。

- ◆運営費交付金
 - ・施設内の多言語化、観覧・鑑賞環境の充実等

② 国立文化施設の整備

119.1億円(72.0億円)

- ◆美術館・博物館・劇場の施設等の充実
 - ・環境整備、基幹施設(空調施設、舞台設備等)改修工事等

※他に復興特別会計で国指定等文化財の復旧等15億円を計上(前年度予算額29億円)。